

4th IRCCS-IRTG-GTR Joint Symposium への出張報告

理学研究科理学専攻 物質・生命化学領域 機能有機化学研究室

博士前期課程 2年 濱田安宏

【出張先, 出張期間】

ドイツ, ミュンスター大学, 2023/5/12-5/19

【出張目的】

融合研究の機会を得るため, ミュンスター大学で開催されたシンポジウムに参加し, 研究発表および同大学の PI とのディスカッションを行った.



ミュンスター大学

【概要】

ドイツ, ミュンスター大学で開催された 4th IRCCS-IRTG-GTR Joint Symposium に参加した. シンポジウム 1 日目 (5/15) は, 名古屋大学とミュンスター大学の PI (9 名) の研究内容についての講演を聴講した. また, ポスターセッションではポスターを用いた研究発表とディスカッション, ポスターの聴講を行った. シンポジウム 2 日目 (5/16) は, ミュンスター大学の PI と融合研究についてディスカッションを行った. また, 同大学の研究施設の見学を行い, 研究の環境やスタイルについて学んだ. さらに, 5/14-5/17 の 4 日間では, 現地の文化を体験するとともに, 同大学の学生, PI との交流を深めた.

【所感】

1. シンポジウム 1 日目 (PI の講演, ポスター発表) について

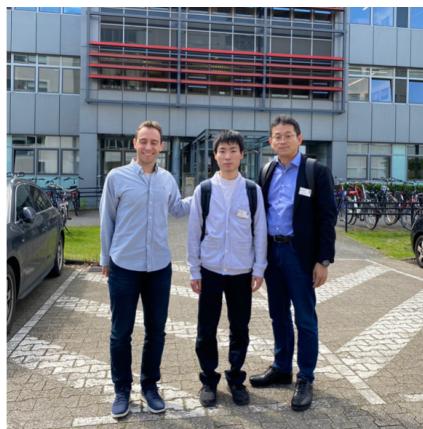
シンポジウムでの PI の講演を聴講し, 量子化学計算や核酸化学, 有機化学など様々な分野の知識を得ることができた. また, それぞれの PI の研究内容を知ることによって, 今後融合研究を考えるときに役に立つと感じた. ポスターセッションでは, ポスターを用いて研究発表を行った. 超分子化学を専門とする Gustavo Fernández 教授やその学生が主に聴きにきてくださり, 自身の研究内容を英語で伝えることができた. また, ディスカッションを通して, 新たな発想を得るとともに自身の研究内容を見つめ直すことができた. ポスターセッションは昼食をとりながら行われたため, 楽しい雰囲気ですぐにディスカッション, 交流をすることができた. この経験から, 英語での研究発表, ディスカッションに対する心理的障壁は下がったが, 満足のいくディスカッションをするためには, 英語能力を高める必要があると感じた.



ミュンスター大学学生と

2. シンポジウム2日目 (PIとのディスカッション, 研究施設の見学) について

ミュンスター大学のPIと融合研究に関してディスカッションを行った。Gustavo Fernández教授との1時間のディスカッションを、山口茂弘教授と一緒にいき、自身で考案した分子設計指針と同教授の研究内容の強みを組み合わせるような融合研究を提案した。たくさん意見やアドバイスをいただき、融合研究を考えるうえで有益な時間であった。このディスカッションを通して、同教授の研究室で研究を進めたいと強く感じた。また、Bart Jan Ravoo教授との30分間の1対1デ



Fernández教授と

ィスカッションでは、自身の研究内容に同教授の発想を組み込んだ融合研究を着想するに至った。このような海外の研究者とのディスカッションを通して、視野を広げることができ、融合研究を行ううえで貴重な経験を得た。ミュンスター大学の研究施設の見学について、作業の内容ごとにスペースが区切られている、研究室間の移動がしやすい、安全・衛生管理が徹底されているなどの印象を受けた。実際に現地で実験をしないと分からないことが多いと思うが、研究スタイルで良い部分を学ぶ良い機会になった。

3. その他 (ミュンスターの文化の体験, 学生・PIとの交流)

5/14-5/17の4日間は、昼食、夕食ともにミュンスターの学生に準備していただき、学生、PIとの交流を深めた。また、5/14と5/17の2日間は観光の時間が設けられており、とても充実した時間を過ごすことができた。ミュンスターの気候や街並み、食文化、生活環境を知ることができ、留学を考える良いきっかけになった。特に観光において、ミュンスター大学の学生と親睦を深めることができた。今後も海外の研究者との交流の機会を大切に、融合研究のコネクションを構築していきたい。



ミュンスター大学学生との交流

【謝辞】

今回の出張に関して、貴重な機会を与えていただいたGTRプログラムコーディネーターの山口茂弘教授、GTR運営関係者およびGTR学生支援室のみなさま、本出張でお世話になりました物質科学国際研究センターの木原優子さん、ミュンスター大学のみなさまに深く御礼申し上げます。